

関連科目、教科書および補助教材

関連科目	
教科書	「総合学習・異文化理解のドイツ語」大藪正彦(朝日出版)
補助教材等	「やさしいドイツ語の学習辞典」根本道也編集(同学社)

学習上の留意点

日々の習熟による慣れが、語学の習得を効果的にし、無理なく上達していくためのポイントになる。最低でも、授業の前、10分程度でいいので、復習を怠らないこと。また、新規に習ったことは、課された練習問題で自力で解いてみて確認する、そういう地道な努力を忘れないこと。最初は、まず単語や文章がスラスラ読めるように受講生と一緒に、しっかり声を出してやりましょう。テキストは当然ですが、辞書も、必ず持参すること。

担当教員からのメッセージ

ドイツというと、日本と同じく、もの作りの大国である。ベンツやフォルクスワーゲン、BASF(巨大化学会社)、ジーメンス(総合機械電機メーカー)などはすでにおなじみである。また、バッハ、モーツァルト、ベートーベンなどの音楽や哲学思想でもたくさんの偉大な成果を挙げている。ほかにも、ドイツサッカー、観光地のノイシュバンシュタイン(新白鳥城)、オペラ、アウトバーンドライブ、ソーセージにビール、クリスマス夜市、など何でもある。何でもいいので各人、ドイツ体験を目指して、この1年、ドイツ語を楽しくやりとげましょう。

授 業 の 明 細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	はじめに	オリエンテーション、ドイツと日本の関係、ドイツ語の歴史、英語との比較、日本語になっている身近なドイツ語を学び知ることができる。	ドイツ語の基本単語の課題を提出すること。
2	発音練習(1)	アルファベット、母音・変母音についてその基本に従って正確に発音できる。	発音課題を提出のこと。
3	発音練習(2)	子音の特殊な読みを知り、日常よく使われる挨拶の言葉、数詞をスムーズに読めるようになる。	発音課題を提出のこと。
4	第1課 動詞の人称変化	動詞の変化の基礎を把握できる。文の作り方。	発音テストを行う
5	第2課 名詞の性・数・格	性と格の関係を理解できる。名詞複数形の仕組みを把握できる。	課題提出
6		名詞の格変化と複数について演習問題をやり、理解度を確認する。	課題提出
7	第3課 前置詞	前置詞の格支配の仕組みについて把握できる。	
8	中間試験	中間試験の解説を行う。	
9	第3課 接続詞	従属接続詞と複文の作り方が理解できる。	課題提出
10		不規則動詞について基礎的単語を習得できる。	課題提出
11	第4課 人称代名詞	3格と4格について理解し、運用できる。	課題提出
12	再帰代名詞・再帰動詞	再帰的表現について、基本を理解し、表現できる。	課題提出
13	第5課 冠詞類	定冠詞類について基本を確実に習得できる。	課題提出
14		不定冠詞類について、その基本を確実に習得できる。	
前期末試験			
15	試験返却・解答解説	試験の解説を行う。ここまでのまとめを行う。	夏季休暇レポートを課す。

授 業 の 明 細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	第6課 形容詞の格変化	形容詞の変化の2大パターンの基礎を理解し、運用できる。	課題提出
17	形容詞の比較変化	比較表現を英語の場合との違いに注意しつつ、基本表現ができる。	課題提出
18	第7課 分離動詞	セパレートする動詞の仕組みを理解し、多様な表現ができる。	課題手出
19	非分離動詞	セパレートしない動詞の仕組みを理解し、それを使った表現ができる。	課題提出
20	第8課 話法の助動詞	英語の助動詞との比較を通して、確実に用法を理解し、表現できる。	課題提出
21	第9課 動詞の3基本形	過去・過去分詞について、規則・不規則変化を理解できる。	課題提出
22	現在完了	日常会話において、使用頻度の高い官僚の基本を理解、表現できる。	
23	中間試験		
24	第10課 受動態	能動態から受動態への態の転換の仕方を理解し、表現できる。	課題提出
25	第11課 関係代名詞	英語のケースをまず念頭において、違いを意識しつつその仕組みを理解し、表現できる。	課題提出
26		関係代名詞の表現に関して演習問題をする。	
27	総合演習	資料を使って、重要な表現の確認を行う。	
28		ドイツの歌、グリム童話に挑戦する。	
29	第12課 接続法	英語の仮定法と比較しつつ、接続法の基本を理解できる。	
学年末試験			
30	試験返却と解答解説	試験の解説を行う。全体のまとめを最後に行う。	
総 学 習 時 間 数			90 時間
講 義			60 時間
自学自習			30 時間